

刊行五〇年を迎えて

由井常彦

『三井文庫論叢』は、今号で五〇号の節目を迎えました。三井文庫の歴史は、明治三十六年（一九〇三）に発足した三井家編纂室にさかのぼります。大正七年（一九一八）以来、三井文庫を名乗って参りましたが、戦後には、活動休止を余儀なくされた時期がありました。昭和四十年（一九六五）に、財団法人として再発足を遂げた三井文庫が、二年後の昭和四十二年（一九六七）に、研究成果発表の場として創刊したのが『三井文庫論叢』で、以後毎年一冊の刊行を続けて参りました。

この間、三井文庫の専任の研究員並に外部の三井文庫史料利用者による論文・研究ノート・史料紹介などの掲載点数は著しいものとなりました。そこで本号においてはとくに創刊号以来の総目次を付して、ご参考に供することにいたしました。

三井文庫では、財団法人としての再発足から間もない昭和四十一年（一九六六）二月より、所蔵史料の公開を開始し、整理がついた史料から逐次公開につとめております。三井文庫での史料公開は、近世商業史料・近代経営史料の本格的公開に先鞭をつけたといえるかもしれません。『三井文庫論叢』誌面においては、第一四号以降、「新規公開資料」とし

てその告知をおこない、現在にいたっております。また、第二四号以降では、毎年発表された三井関係の研究文献目録もあわせて掲載しております。

今回、第五〇号の刊行にあたって、三井文庫で長く研究員を務められた賀川隆行氏に三井文庫での仕事を回顧する一文の執筆をお願いし、本号にご寄稿いただきました。

さらに、第五〇号刊行と史料公開開始から半世紀を閲したことを記念して、『三井文庫史料 私の一点』（仮）という小冊子を、『三井文庫論叢』別冊として平成二十九年（二〇一七）五月に刊行することにいたしました。これは、史料利用者それぞれのご経験に即し、三井文庫史料を一点とりあげて、短文でご紹介いただくという企画であります。これまで三井文庫の史料を閲覧利用された多くの方々にご執筆を願いましたところ、一〇〇人をこえる多数の方々からご寄稿をいただきましたので、第五〇号とは別に一冊にまとめることにいたしました。歴史研究の進展に三井文庫史料が果たしてきた幅広い役割を知り、三井文庫史料が持つ豊かな可能性を浮かび上がらせるものと考えております。

三井文庫では、昨平成二十七年（二〇一五）五月、「日本屈指の経営史料が語る 三井の三五〇年」という展覧会を開催し、多くの皆様にご来場をいただきました。また同時に『史料が語る 三井のあゆみ』という三井の歴史に関する概説書を刊行し、おかげさまで好評を博しております。展覧会や『三井のあゆみ』は、三井文庫史料を用いて三井文庫内外の研究者が積み重ねてきた、幅広い分野にわたり、かつ分厚い研究の蓄積を凝縮することによって可能となりました。そうした研究の積み重ねの場として、『三井文庫論叢』の持つ重要性は、今後とも減ずることはないものと考えております。

三井文庫が、歴史資料の調査・収集・保存・公開・研究という地道な仕事を長年に亘って継続し、また『三井文庫論叢』の刊行を五〇号にまで積み重ねられてきたことは、三井各家並に三井グループ各社をはじめとする賛助会社各社の惜しみないご支援のおかげであり、この場を借りて改めて御礼を申し上げたいと存じます。